

老人クラブとコミュニティ・スクールの 連携活動事例集

～平成 28 年度 地域で活躍！シニア社会貢献活動推進事業報告書～



高齢者がいきいきと活躍できる地域づくりをめざして



一般財団法人

山口県老人クラブ連合会

〔きららシニア山口〕

はじめに

少子高齢化や核家族化の進行により、地域のつながりの希薄化等、地域社会の状況が変化していく中で、地域での子供同士の遊びや子供と大人の交流といった光景が少なくなっています。次代を担う子供たちが幅広い世代の他者とふれあい、多様な体験を重ね「生きる力」を身に付けていくためには、地域全体で子供たちを育むことが必要です。

老人クラブは、地域に根差した組織として、健康づくり、友愛活動（高齢者相互の生活支援）をはじめ、子供の健全育成、世代間交流、地域の安全・安心、文化伝承等、多様な奉仕活動により地域に貢献しています。

今回の「地域で活躍！シニア社会貢献活動推進事業」は、平成27年10月に行われた「ねんりんピック山口大会」を契機とする、高齢者のスポーツ文化活動への関心や社会参加意識の高まりを継承・発展させるため、老人クラブを中心とする地域の高齢者が地域の拠点である「コミュニティ・スクール※」への参画を推進し、高齢者の社会参加の促進と豊かな知識や経験を活かして活躍できる場を創出することにより、高齢者がいきいきと活躍できる地域社会の実現を図ることを目的として、山口県の補助金を受けて実施したものです。

山口県では、平成28年4月に公立のすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されており、これまでも多くの地域で老人クラブとコミュニティ・スクールとの連携が取り組まれていますが、今回の事業を通して、実践事例を蓄積し、その普及啓発を図り、地域における高齢者の社会貢献活動のより一層の展開を図りたいと考えております。

本事例集（報告書）は、平成28年度にモデル指定した6地区での老人クラブとコミュニティ・スクールの活動実践をまとめたものです。各地域での取組の一助となれば幸いです。

終わりに、本事業の実施にあたり御尽力いただきましたモデル老人クラブの皆様をはじめ、学校、地域の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成29年3月

一般財団法人 山口県老人クラブ連合会
会 長 西 川 三 代 子

※「コミュニティ・スクール」

学校と保護者や地域住民が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映されることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みのこと。保護者や地域住民等から構成される学校運営協議会が設置されている。

目 次

☆ 平成28年度地域で活躍！シニア社会貢献活動推進事業の取組概要 …	1
☆ 牟礼老人クラブ連合会（防府市）	3
☆ 花岡友愛クラブ・南花岡老人クラブ（下松市）	6
☆ 久保地区老人クラブ連合会（下松市）	9
☆ 周防シニアクラブ連合会（光市）	12
☆ 中央・関門地区老人クラブ連合会（周南市）	28
☆ 桜木地区クラブ連合会（周南市）	34



平成 28 年度 地域で活躍！シニア社会貢献活動推進事業の取組概要

1 目 的

老人クラブを中心とする地域の高齢者が地域の拠点である「学校（コミュニティ・スクール）」への参画し、高齢者の社会参加の促進と豊かな知識・経験を活かして活躍できる場を創出することにより、高齢者がいきいきと活躍できる地域社会の実現を図る。



2 老人クラブとコミュニティ・スクールとの連携によって期待される効果

(1) 地域にとっての効果

- 地域の交流拠点としてのコミュニティ・スクールに関わり、**高齢者の社会参加の機会拡大**を図る。
- 高齢者の知識・経験を生かせる場としてのコミュニティ・スクールに関わり、**世代間交流や高齢者の社会貢献活動の推進**を図る。

(2) 老人クラブにとっての効果

- コミュニティ・スクールでの子供たちとの交流活動が**会員自身の楽しみになる**。
また、**学校や地域社会に貢献しているという意識が自分の生きがいにつながる**。
- コミュニティ・スクールや学校運営協議会への参加・交流で、**他団体とのつながりが深まり、地域での老人クラブの認知度、存在感アップにつながる**。
- 子供たちとの交流に**地域の高齢者を担い手として参加してもらい、新たな会員、担い手の発掘が期待できる**。
- 呼びかけをする方も声をかけやすく、声をかけられる方も参加しやすい子供との交流を実施することで、**会員増強運動での声かけ運動の手段として活用できる**。

本事業の実施により学校と老人クラブのより一層垣根を低くし、また、今ある活動に学校・子供との関わりをプラスしながら、無理のない範囲で新たな取組に挑戦して、地域の中での老人クラブの存在感の発揮と老人クラブの仲間づくり、応援団づくりが期待される。

2 具体的な取組

(1) コミュニティ・スクールの視察

県・市町老連の役員がコミュニティ・スクールの取組について視察を行いました。

① 周南市立岐山小学校〔7月12日（火）：参加者18人〕

⇒ 月1回、昼休みの時間を活用し、児童と地域住民が「昔の遊び」を通じてふれあう「ひまわりタイム」の様子を視察しました。

② 山口市立鑄銭司小学校〔7月25日（月）：参加者17人〕

⇒ 地元の「郷土の偉人大村益次郎の紙芝居をつくろう会」と児童有志が地域の昔話を題材にした紙芝居制作の様子を視察しました。



（写真左）岐山小学校「ひまわりタイム」の様子

（写真中央）活動グループとの意見交換

（写真右）鑄銭司小学校での

紙芝居制作の様子

(2) モデル老人クラブの指定

応募のあった4市6クラブをモデル指定しました。

	市町名	クラブ名	対象学校	主な取組
1	防府市	牟礼老人クラブ連合会	牟礼小学校	昔の遊び、昔の暮らし体験、昔の道具を使っての米づくり、あいさつ運動ほか
2	下松市	花岡友愛クラブ 南花岡老人クラブ	花岡小学校	昔の遊び、折り紙教室、地域の歴史・昔話、グラウンド・ゴルフ指導ほか
3	下松市	久保地区老人クラブ連合会	久保小学校	昔の遊び、ゲートボール教室、米作り、亥の子、囲碁教室ほか
4	光市	周防地区老人クラブ連合会	周防小学校	昔の暮らし体験、通学合宿 池の鯉作戦、バケツ1杯の土運動ほか
5	周南市	中央・関門地区 老人クラブ連合会	徳山小学校	昔の遊び、地域参加型授業、大人の学び、園芸指導、三世代交流会ほか
6	周南市	桜木地区老人クラブ連合会	周陽中学校	登下校の見守り活動、自学サポート、三世代交流会ほか

防 府 市 牟礼老人クラブ連合会

～ 地域全体で大人が子供の手本となるために。老人クラブと関係機関の連携 ～



連携している学校

防府市立牟礼小学校

(児童数：約 480 人／コミュニティ・スクール指定：平成 24 年度)



地域の概要

人口：16,455 人 世帯数：7,641 世帯 高齢化率：31.8%

牟礼地区は、防府市の東部に位置し、大平山を背にして東は富海地区、南は瀬戸内海、西は中心市街地と接している。地区の北部をＪＲ山陽新幹線、山陽自動車道、国道２号線（防府バイパス）が通っている交通の要所である。地区内には鎌倉時代に東大寺再建を命じられた俊乗坊重源が創建した阿弥陀寺をはじめ、岩畠極楽寺、敷山城跡、大寒みそぎで知られる春日神社など多くの旧跡や文化財がある。



学校と連携している老人クラブ

岩畠悠友会、上木部老人クラブ（会員数：205 人〔男性 102 人、女性 103 人〕）

【主な活動内容】

- * 自治会福祉部と連携した脳トレサロン等のサロン活動〔岩畠、上木部〕
- * 健康増進を目的とした週２回のペタンクの練習〔岩畠〕
 - ⇒ 全国健康福祉祭に山口県代表としての出場歴のある腕前で、会員募集もペタンクを通じて行っています。また、地区内の養護老人ホーム「やはず苑」と一緒にプレーすることもある。
- * 一人暮らし高齢者の見守り活動〔岩畠、上木部〕
- * 正月用の輪飾りの地区内での受注生産〔上木部〕
 - ⇒ 材料となるわらを入手するために稲作も行っている。



学校と関わった経緯

防府市では、平成24年度からすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定され、牟礼老人クラブ連合会では、会長が学校運営協議会の委員に参画し、安全安心委員会、地域貢献部会に所属し、牟礼子ども見守り隊、あいさつ運動、防災訓練、子供たちの地域行事への参加について協力を行い、学校との連携を深めている。



学校での活動の具体的な内容

【従来からの主な取組】

- * 昔の遊び（折り紙、竹馬、コマ回し、あやとり等）〔1年生対象〕
- * 昔の暮らし体験（火おこし、吊りはかり等）〔3年生対象〕
- * 昔の道具を使つての稲作（もみまき・田植え・稲刈り・はぜかけ・脱穀）及び餅つき〔5年生対象〕
 - ⇒ 老人クラブ会員が8割を占めている郷土史同好会と連携して活動を進めています。また、収集した昔の道具を郷土資料室に展示しています。
- * 牟礼ミラタクネット（地域協育ネット※）への参画
 - ⇒ 地域一斉あいさつ運動、クリーン作戦等の実施
- * 牟礼子ども見守り隊への協力
- * 放課後子ども教室への協力



昔の道具を使つての粃摺り（左）と餅つき（右）



校内になる郷土資料室。昔の暮らし体験や稲作でも使用している。

※「地域協育ネット」

幼児期から中学校卒業程度までの子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援するため、各中学校区のコミュニティ・スクールが核となり、学校、家庭、地域で形成されたネットワークのこと。ネットワークの名称は、各校区によって異なり、牟礼地区は子供たちに牟礼の「未来」を「託」したいという願いを込めて、通称を「牟礼ミラタクネット」としている。

【今回の事業での取組】

- * より多くの子供が体験できるための昔遊びの充実
- * 牟礼子ども見守り隊への参加促進
- * ペタンク教室の実施準備



活動での工夫（活動がうまくいくように心がけていることなど）

- 牟礼ミラタクネットや牟礼小学校の学校運営協議会に積極的に参加し、学校の先生との関係を深め、地域の関係団体との輪を広げている。
- 老人クラブが子供、親世代に姿勢を示すため、常に子供への声のかけ方、言葉遣いに注意している。



活動を振り返っての成果（活動が行っていて良かったことなど）

子供たちと関わることで元気をもらえる。一緒に活動した後「楽しかった」と子供たちから言われるとうれしいし、やってよかったと思う。会員が喜びを感じ、励みになることで、次の活動参加につながる。地域で井戸端会議のような集まりが少なくなる中で、高齢者の閉じこもりを防ぎ、健康増進につながる機会として、学校との連携は大変重要と感じ、活動を続けている。



活動での課題（活動が行う中で困っていることなど）

地域一斉あいさつ運動では、公民館だよりに掲載したり、幟旗を立てたりしているが、外部から「あいさつしよう」と呼びかけるだけではなかなか徹底しない。家庭内でのしつけも含め、地域全体で大人が子供の見本になるよう振る舞う必要があり、学校運営協議会での意識共有を図っていきたい。



活動での反省（活動で失敗したことや改善点など）

孫が学校を卒業してしまうと、遠慮する気持ちが働いて学校に関わりにくいことがある。学校からの要請を活かして会員に声をかけていきたい。

老人クラブだけではできないことも多い。引き続き、学校運営協議会に参画して、他団体との協力を進めていきたい。



今後の活動の展望（今後の活動予定や意気込みなど）

地域貢献の機会である学校との連携を継続していくために、学校運営協議会への参画を通じて、老人クラブとしてできることを伝え、学校からの要望も聞きながら活動を続けていきたい。



下松市

花岡友愛クラブ 南花岡老人クラブ

～ 老人クラブは、地域の「先生」。昔遊びやグランウンド・ゴルフを通じた交流 ～



連携している学校

下松市立花岡小学校

(児童数：約 850 人／コミュニティ・スクール指定：平成 28 年度)



地域の概要

人口：15,631 人 世帯数：6,683 世帯 高齢化率：26%

花岡地区は下松市の西北部に位置し、西は周南市に接しており、山陽自動車道、ＪＲ山陽新幹線、ＪＲ岩徳線と国道２号が東西に横切っている。商業開発や宅地開発が急速に進んでおり、他地域からの流入が多い地域で、児童数も増加傾向である。平成 20 年に御鎮座 1300 年を迎えた花岡八幡宮があり、昔はその門前宿場町として栄え、今も旧街道の面影が残る。11 月の「稲穂祭」はきつねの嫁入り行列で有名である。



学校と連携している老人クラブ

花岡友愛クラブ、南花岡友愛クラブ（会員数：230 人〔男性 160 人、女性 70 人〕）

【主な活動内容】

- * 花岡八幡宮の境内清掃、しめ縄作り
- * 周防花岡駅の清掃、樹木の選定
- * 花岡公民館祭り



学校と関わった経緯

下松市では、平成 28 年度からすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定され、花岡友愛クラブ・南花岡老人クラブでは、20 年以上前から登下校の立哨やふるさと学習を通して、子供たちの健やかな育成と健全な家庭環境づくりに寄与できればと思い、学校、子供たちとの連帯を深めている。



学校での活動の具体的な内容

【従来からの主な取組】

- * 昔の遊び（竹とんぼ、コマ回し、けん玉、あやとり、お手玉等）〔1年生対象〕
- * 七夕の折り紙教室〔1年生対象〕
- * ふるさと学習（地域の歴史・昔話）〔3年生対象〕
- * 交通安全立哨



七夕の折り紙教室の様子

【今回の事業での取組】

- * グラウンド・ゴルフ教室の実施〔5年生、6年生対象〕
 - ⇒ 1年生だけでなく、学校側から中高学年とも交流を持ってほしいということで、ルールブックを作成し、配布した。この指導については、花岡小学校区にある6つの単位老人クラブ23人で組織されているグラウンド・ゴルフ愛好会が担当している。グラウンド・ゴルフを通じた会員勧誘、愛好会の活躍の場につなげていきたい。
 - ⇒ ケーブルテレビに取材してもらい、老人クラブ活動のPRに役立てている。
- * 昔の遊びの充実
 - ⇒ 1学年5クラスある大規模校で、道具や材料が行き渡らないこともあったため、その整備、充実を行った。



グラウンド・ゴルフ教室のために作成したルールブック



活動での工夫（活動がうまくいくように心がけていることなど）

- 「昔の遊び」では、児童数が増えたので、目が配れるようにグループに分けて、ローテーションをして指導する。
- 老人クラブ会員には、小学校区になる6つの単位老人クラブの会長を通じて、文書で参加を呼びかけ、指導役の人数を増やすようにしている。
- 子供と接する時は、老人クラブ会員も名札をつける。



活動を振り返っての成果（活動が行っていて良かったことなど）

- 定年後、家にこもりがちな高齢者にとって外出の機会となる。子供や他の会員との交流によって気持ちが元気になる。
- 「昔の遊び」を教えることで、子供たちから「先生」と呼ばれ、感想文もいただいて、うれしい。顔も覚えてもらい、登下校時に会うとあいさつをしてくれる。



活動での課題（活動が行う中で困っていることなど）

- 今回の事業では助成金があり、活動の充実が図れたが、老人クラブ全体としては資金力がない。
- 学校の人事異動があっても活動が継続できるように、日頃から学校側に老人クラブの想いを伝えている。また、学校運営協議会の参画について打診している。



活動での反省（活動で失敗したことや改善点など）

- 地域に対して活動のPRが不足している。今後もケーブルテレビや市広報等の活用を検討したい。



今後の活動の展望（今後の活動予定や意気込みなど）

- 学校側と協議をしながら新しい事業や遊びについて提案していきたい。
- 学校での昔の遊び等において、会員が多く集まったら老人クラブとしてのパワーが発揮できている。こうした機会を大切にして、老人クラブの活動や魅力をしっかりとPRしていきたい。



下松市 久保地区老人クラブ連合

～ 老人クラブの「ティーチャー」が、子供を誉めて育む心の交流 ～



連携している学校

下松市立久保小学校

(児童数：約 300 人／コミュニティ・スクール指定：平成 28 年度)



地域の概要

人口 9,683 人 世帯数 4,006 世帯

久保地区は下松市の東部に位置し、東は周南市熊毛町に隣接している。山陽自動車道、ＪＲ山陽新幹線、ＪＲ岩徳線と国道２号が東西に横切っている。地区内には、工業・物流団地である「周南工流シティー」があり、自然環境に恵まれた農山間地域に大小の住宅団地が開発され、近年は国道２号線沿いに商業施設が進出する等、伝統と新しい力が融合している。



学校と連携している老人クラブ

久保ふれあいクラブ（会員数：63 人）

【主な活動内容】

- * 認知症予防の脳ひらめき教室
- * グラウンド・ゴルフ
- * 日帰り温泉旅行や焼き肉パーティー等の親睦事業



学校と関わった経緯

学校との関わりは、少なくとも 20 年以上前には、戦争体験の講話や昔の遊びを行っており、それ以来、活動内容を見直しながら子供たちとのふれあいを第一に考えて続けている。老人クラブが学校の役に立つことがあればと思い、学校からの要望に対してできる範囲で協力している。



学校での活動の具体的な内容

【従来からの主な取組】

- * 昔の遊び（コマ回し、羽根つき、あやとり、お手玉、竹トンボ等）〔1年生対象〕
⇒ 以前は1月に実施していたが、お正月に遊べるように12月に行っている。
- * ゲートボール教室〔4～6年生対象〕
⇒ 学校を休みがちだった子供がゲートボール大会に出場し、好成績を収め、大人から誉められたことで、その後、休まずに登校するきっかけになった。
- * 米作り（田植えから稲刈り、しめ縄作りまで）〔5年生対象〕
⇒ 学校での活動を通じて、田んぼを持っている人が老人クラブに入会されたので、今後は老人クラブの活動として実施していく。

【今回の事業での取組】

- * 伝統行事「亥の子※」〔3年生対象〕
⇒ 3年生の教科書に「亥の子」が出てくるということで、学校からの提案を受け、どんなものか再現を行った。
- * 囲碁教室〔6年生対象〕
⇒ 集中力と考える力を身につけることを目的として、老人クラブから提案して実施した。



昔の遊び（コマ回し）



昔の遊び（折り紙）



亥の子



囲碁教室

※「亥の子」

無病息災や子孫繁栄を祈り、亥の子石に縄を付けたものを子供たちがもって、地区の家々の前で、地面について回る行事のこと。



活動での工夫（活動がうまくいくように心がけていることなど）

成人しても地元を想って欲しいという願い、心の交流を大切にして欲しいという思いで「ようできたね」「上手だね」「こうやったら、もっとええよ」と誉めて、励まし、提案して接するように心がけている。



活動を振り返っての成果（活動が行っていて良かったことなど）

- 三世代同居が少なくなっている昨今、三世代交流は子供たちも喜んでいる。子供たちは地元の人と接することができて顔見知りにもなり、心の交流が生まれてきている。
- 子供たちからお礼の手紙が来るとうれしい。何か役に立っていると感ずることので活動の励みになる。



活動での課題（活動が行う中で困っていることなど）

- 昔の遊びは親世代が知らないで子供にもなじみがなく、コマ回しも1年生には少し難しいように見受けられるので、実施学年の見直しを検討したい。
- しめ縄作りで縄ないのできる人が高齢化しているで、続けていくためには、伝承を行っていく必要がある。



活動での反省（活動で失敗したことや改善点など）

会員が熱心に取り組み、うまくいっているで特に問題なし。



今後の活動の展望（今後の活動予定や意気込みなど）

- 囲碁教室については、老人クラブ側から提案し、採用されたが、基本的には学校からの要望に対応していきたい。元気な間は、世のため人のため地域のたために、できるだけことはやりたいと考えている。
- 伝統行事や手仕事を伝えていくたために、60代、70代が老人クラブに入会して年寄りのサポートをして欲しいので、学校との連携活動時に地域の高齢者に呼びかけを行いたい。



光市

周防シニアクラブ連合

～ 大人も子供もお互いに「楽しい活動」を共有し、達成感と充実感を積み重ねる ～



連携している学校

光市立周防小学校

(児童数：約 80 人／コミュニティ・スクール指定：平成 26 年度)



地域の概要

人口：1,948 人 世帯数：889 世帯 65 歳以上：731 人 高齢化率：37.5%

周防地区は光市北部に位置し、市の中心部から車で 10 分ほどの静かな農村地帯である。古くは旧光市、旧熊毛郡、旧玖珂郡を治める役場があった。地区の中心部を流れる島田川を挟んで東西に台形を形作っている。かつては純農村地帯であったが、周南工業団地ができたことにより、現在は兼業農家が多くなっている。



学校と連携している老人クラブ

周防シニアクラブ連合会

(会員数：263 人〔男性 116 人、女性 147 人〕／単位クラブ数：5 クラブ)

【主な活動内容】

自分たちが楽しめる活動を企画するように努め、会員外にもチラシで案内を行い、最近 10 年間、約 260 人の会員数を維持している。

面白い活動を企画した結果、年間約 400 人が参加し、お世話役も企画運営する楽しさを感じながら活動を行っている。

- * 高齢者学級の開催（延べ 7 回／年）
- * 男性料理教室（月 1 回）
- * 友愛活動
- * 研修旅行



学校と関わった経緯

周防シニアクラブ連合会では、会長が学校運営協議会の副会長に参画しています。学校とは、平成26年度のコミュニティ・スクール指定のかなり前から、昔の遊び等の実施により関わっている。

学校運営協議会への参画により授業参観、校内研修等への参加し、学校（先生）との距離が近づき、学校も地域の協力を求めていることがわかり、老人クラブとしても学校、子供のために何かできないかと考え、今回の「池の鯉作戦」「バケツ1杯の土運動」につながった。



学校での活動の具体的な内容

【従来からの主な取組】

- * 昔の遊び（紙飛行機作り、輪回し等）
- * 花壇作りと給食試食会
- * 通学合宿※でのお月見会とグラウンド・ゴルフ大会
- * 昔の暮らし体験

【今回の事業での取組】

- * 池の鯉作戦
 - ⇒ 昭和54年に作られ、ボーフラと蚊が飛び交う古びた池に鯉等を泳がせ、あるべき姿を取り戻し、児童の心のやすらぎと自然の美しさ、命の大切さを味わって欲しいと願い、会員で清掃、補修を行った。校歌にも出てくる若鮎の像は、美術店経営者の厚意で補修してもらい、養鯉業者に提供してもらった約50匹の鯉を子供たちと一緒に放流した。現在では、子供たちが池に近づくと鯉が寄ってくるようになり、子供たちと生き物との距離が縮まっている。
- * バケツ1杯の土運動
 - ⇒ 児童に生き物に対する興味、蝶の不思議な習性、生命の大切さに興味を持って欲しいと願い実施した。春には“春の女神”と呼ばれるキフチョウ※を呼ぶためサンヨアオイを、秋には“旅する蝶”と呼ばれるアサギマダラ※を呼ぶためフジバカマを植えるための花壇を作った。
 - ⇒ 花壇の土は、公民館報と地域の新聞にバケツ1杯の土の提供を呼びかけたところ、地区住民から次々と寄せられて花壇が完成し、子供たちと一緒にサンヨウアオイとフジバカマの植栽を開始しました。

※「通学合宿」

地区内にある野外活動センター「周防の森ロッジ」に周防小学校の5年生が生活の拠点を置き、炊事、洗濯、清掃など家庭生活体験を子供たち自身で行いながら4泊5日で通学するもの。

※「ギフチョウ」

日本固有のアゲハチョウの一種で、北は秋田県から南は山口県東部が生息地とされている。サンヨウアオイは、ギフチョウの幼虫が葉を食べ、成虫が卵を産むといわれている。春にしか出現しないことから“春の女神”と呼ばれている。

※「アサギマダラ」

マダラチョウの一種で全国的に生息しており、初夏から晩秋にかけて見ることができる。アサギマダラは、フジバカマの蜜を特に好んでいる。春から夏にかけて南から北へ移動し、秋になると南下することから“旅する蝶”と言われている。



活動での工夫（活動がうまくいくように心がけていることなど）

- 「池の鯉作戦」では、学校と地域との垣根を低く、あるいは取り払おうと思い、できるだけ多くの人に参加してもらうよう声かけを行った。
- 「バケツ1杯の土運動」では、土は買えばすぐに用意できるが、老人クラブを中心とした地域住民が小学校で子供と活動し、地域で子供を育てていこうとしていること、老人クラブが面白い活動をしていることを知ってもらうために、公民館報等で地区住民への呼びかけを行った。
- 日頃の活動においても老人クラブの活動を知ってもらうために、チラシ等の作成で活動を見える化してPRするとともに、会員外の地域の高齢者にも案内している。



活動を振り返っての成果（活動が行っていて良かったことなど）

- 顔をあわせて議論することによって学校側、先生方との意思疎通はようになった。お互いに理解でき始めたころに先生方は異動してしまうのがネックであるが、取組のサイクルができていたので、先生が変わっても活動が動くようになった。先生が変わっても、老人クラブのスタンスを変えないことが、活動が円滑に進むコツである。
- 子どもたちから「シニアのおじいちゃん、おばちゃん」と呼ばれるようになった。



活動での課題（活動が行う中で困っていることなど）

- 会員に60歳代が入ってこないが、70歳代が若手でクラブを引っ張っていくという気持ちでやっている。学校との連携活動を通じて、地域の中での老人クラブの存在感を高めていきたい。



今後の活動の展望（今後の活動予定や意気込みなど）

- 核家族で、家に孫がいるわけではなく、PTAでもない人が子どもや先生方とふれあう機会を持つことができるのがコミスクのよい点である。老人クラブ会員みんなに興味を持ってもらいたい。
- 老人クラブという団体が存在すること、老人クラブがどういうものか、活動内容や存在意義を知ってもらうことも大切である。
- 子どもたちにどう育ってほしいかを考えて活動している。子どもたちが「将来、〇〇になりたい」と話すときは光輝いて見える。目標を持つことが大切。子どもたちにとっても、シニアクラブにとっても活動がお互いにとって良い財産となっている。



地区概要

参考 光市 人口 52,286人 光老連会員数 3,789人

周防地区

H.28.4.1 時

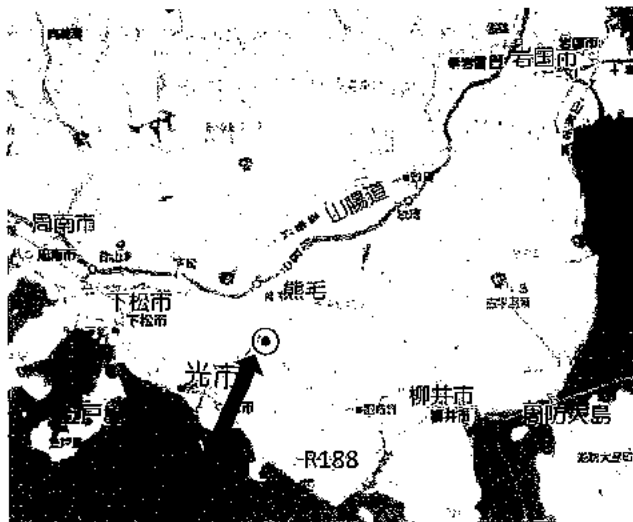
人口	1,948人
65才以上	731人
高齢化率	37.50%

老人クラブ(シニアクラブ) 5クラブ

会員数	263人
加入率	36.0%

光市立周防小学校

昭和40年統合	小周防小学校(明治5年) 立野小学校(明治7年)
生徒数	80名



周防小学校



伊藤公資料館



虹ヶ浜海水浴場



冠山総合公園



フィッシングパーク

報告内容

光市立周防小学校関係行事について、報告します。

- 1 池の鯉作戦(6月)
- 2 花壇作り&給食試食会(7月)
- 3 教育フォーラム in 光(8月)
- 4 通学合宿(9月)
- 5 バケツ一杯の土(12月~29/5月)
- 6 昔の暮らし(29/1月)

附

平成28年度シニアクラブ活動実績(延参加人数)

池の鯉作戦

目的 昭和54年作られた、古びた池は、ポーフラと蚊がわがもの顔で飛び回り、児童を脅かす状態を目の当りにして、これは「いかん」鯉などを泳がせあるべき姿にしようと言う事になった。そして、児童の心にやすらぎと、自然の美しさ、生命の大切さを味わってほしい。

延参加人数 75名

内容 step-1 H.28.6.17
 周辺の除草・植木剪定等整理
 池の滞留物(ヘドロ)除去・清掃・排水口など部分補修



長年の汚れみんなで清掃



公民館前・現館長、連合自治会会長、社会福祉協議会会長…率先して池の中へ



美術店ご夫妻による「若鮎」補修・墨入れ



女性も草取り・剪定・お茶入れに一役



Step-2 H.28.6.23
給水口補修
排水ポンプ設置(電気工事含む)

鯉の放流

鯉50尾を、全校生徒の歌声(365日の紙飛行機)とともに
みんな楽しそうに放流していた。



養鯉・鯉提供者による・鯉の特性・餌のやりかたなどのお話



Step-3 H.28.7.3
藻(水草の一種)の異常発生に気付いた。
光合成抑止の為、池半分に、遮光ネット取り付けた。
室積海岸にて牡蠣殻を集め、池に投入

再度池掃除
効果の程は、いまいちのようです…今後の課題

牡蠣殻を選別しています



鯉をこのような専用容器で運搬しました



花壇作り・食事会の要領

H.28.6.16記

- 目 的
- ・ 心の教育の一環として、児童と共に花を育て、自然を愛する心を育てる。
 - ・ 児童と一緒に給食をいただき、食の大切さを学び、世代交流をはかる。

日 時 2016.7.8 (金) 10:40 ~ 12:45 (概)

場 所 周防小学校



	時間割	内 容
花壇作り	10:45~11:15	苗を花壇に並べる
	11:20~12:00	1・2年生と一緒に苗を植える
給 食	12:05~12:45	児童と一緒に食事(給食)しながら交流をはかる

参 考

1 年生 13 名
2 年生 12 名

サルビア
サルビア・その他



シニアクラブ

参加予定者 (6/14時) ... 17名

集合時間 10時40分

準備する物

手袋

(シニアクラブで準備します)

その他

暑熱対策等各自でお願いします
お茶は、準備します

以 上

教育フォーラムin光

目 的 「学校」「家庭」「地域」が創意工夫を生かして、「学び」「育ち」そして「今」「未来」を見据えた教育活動「世代交流」をはかる。

日 時 平成28年8月19日

場 所 光市民ホール

実施事項 小・中学校学習発表 周防小学校 「地域に支えられている教育活動」
参考 上島田小学校 「私たちの自慢の行事」
参考 島田中学校 「花いっぱい運動」

内 容 小学生による 学校紹介

コミュニティースクールのシンボルマークについて
ギフ蝶の話など……………

映像によるお話

コミュニティセンター館長(公民館)

地区社会福祉協議会会長

児童とのトーク

シニアクラブ会長

質 問

なぜこんなに多くの地域の方が、私たちの応援に
来て下さるのですか・・・???

合 唱 児童・先生・父兄・地区住民

♫ 365日の紙飛行機 ♫ akb 48



参加者の感想 最初は、なんか照れくさかったが、何回か練習するうち、だんだん楽しかった。
当日は、普段通り思い切りやった。"まんぞく"
子供達と一緒に、楽しくて、元気がもらえる… ♪やっぱ一子どもがええの〜♡

通学合宿

目的 炊事、洗濯、風呂の準備、清掃などの家庭生活体験を子どもたち自身の手でさせる。
合宿を通して、自ら考え、身体を動かし、協力して日常生活を行うことにより、自主自立を体験さす。また、共同生活することによる、人とのかかわり方、コミュニケーション能力を高める。

日時 H. 28. 9. 13(火)～17(土) 4泊5日

要領 野外活動センタ「周防の森ロッジ」に生活の拠点を置き周防小学校へ通学するものです

シニアクラブ対応
お月見の会

9月13日 18時30分～20時30分

1). 開会行事

顔合わせ

お月見の由来・何時ごろから

・どうして・どこから

スケジュール

2). お月見食材準備

だんごづくり

さつま芋 茹でる・包丁で切る

栗の皮むき

飾り付け

3). 花瓶にすすき・萩の花など飾り付け

4). お月さま見ながら食事会

参加者

周防小学校5年生：9名・先生2名・父兄5名、シニアクラブ25名

グラウンドゴルフ

9月17日10時～12時

1). 児童と父兄・先生・シニアクラブの人と一緒にグラウンドゴルフを行う。

2). 屋外で児童と一緒に昼食ををたべる。

いわゆる世代交流

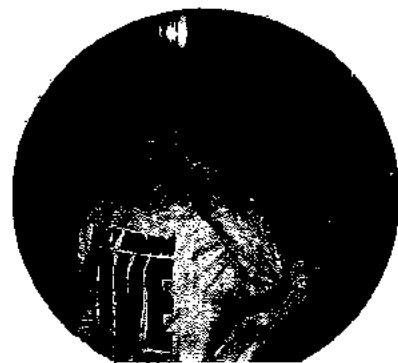
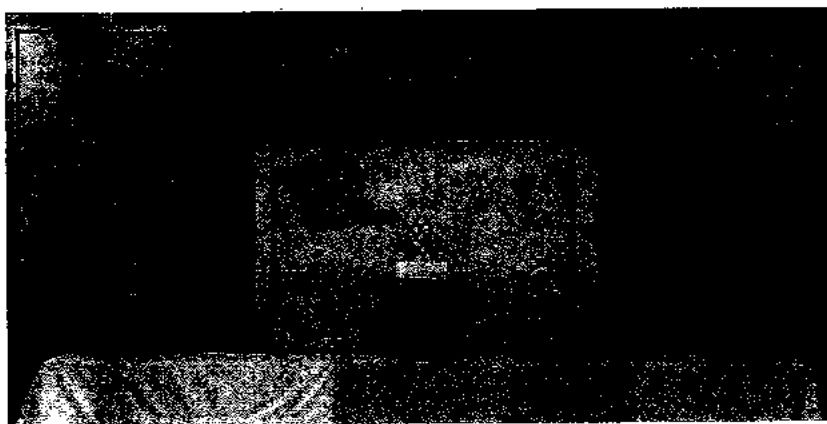
参加者

周防小学校5年生：9名・先生1名・父兄1名、シニアクラブ15名



通学合宿 (お月見の会)

平成28年9月13日

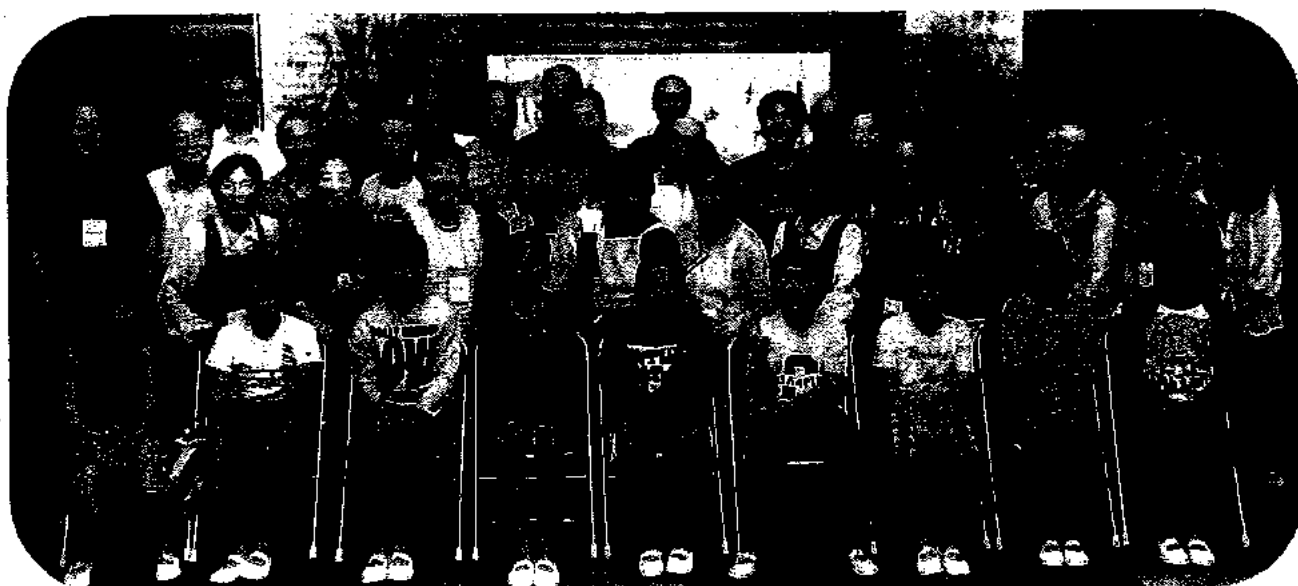


お月見は なぜ・どこから・何の
ため・いつごろから・・・

芋やダンゴ楽しく
つくりました



大勢の人に支えられ
みんな楽しかったです





まちの応援団・瀬戸内タイ
0833-72-2888 FAX 72-83

周防シニアクラブと連
合会(竹林哲也会長)は
春に、春の女神”の
ギフチョウ、秋には
旅する蝶”アサギマ
ダラを乱舞させよう
と、周防小学校にサン
ヨウアオイとフジバカ
マ用の花壇を作った。
ギフチョウは山口県
東部が生息地の瀬西限
頭が飛来し、周防地区

ギフチョウとアサギマダラを乱舞させよう 「バケツ一杯の土」運動で花壇 周防シニアクラブが周防小に設置

周防シニアクラブと連
合会(竹林哲也会長)は
春に、春の女神”の
ギフチョウ、秋には
旅する蝶”アサギマ
ダラを乱舞させよう
と、周防小学校にサン
ヨウアオイとフジバカ
マ用の花壇を作った。
ギフチョウは山口県
東部が生息地の瀬西限
頭が飛来し、周防地区



花壇作りに取り組む会員たち

たところ、地区
住民から次々と
寄せられた。
今後はさらに
腐葉土や真砂を
入れ、一二月ごろ
に児童たちと一
緒にサンヨウア
オイとフジバカ
マを植栽するこ
う。



女性も鉄筋・ブロック積・やりました

周防小学校

花壇をつくる

春には サンヨウアオイ…ギフチョウ” 春の女神”

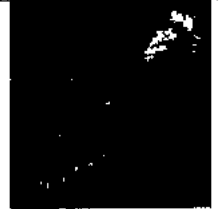
秋には ふじばかま…アサギマダラ 旅する蝶



ギフ蝶



乱舞



アサギマダラ

生き物に対する興味
蝶のふしぎ(旅する蝶)
生命の大切さ
興味を持ってほしい



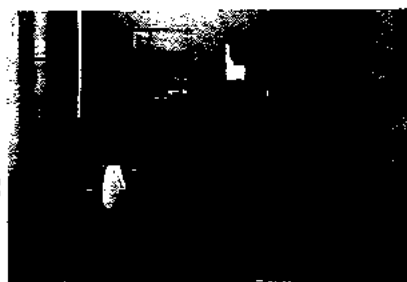
現在進行中

H.29.1.6・7(延参加人数…40名+先生方13名)

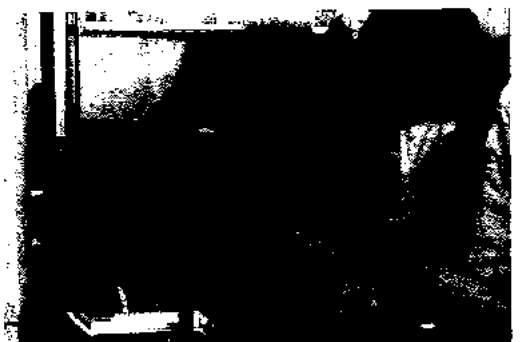
サンヨウアオイ(ギフ蝶)、フジバカマ(アサギマ
ダラ)用の花壇の枠組みをそれぞれブロックで
作る。

H.29.1.8~1.31

花壇に入れる・腐葉土・田畑の土を募集→ 満杯
真砂土と腐葉土などブレンド整地



コンクリートで基礎作り



バケツ一杯の土で、こんなに立派な花壇になりました。



アサギマダラ 2.4m×3.2m×0.45m



ギフ蝶 1.8m×3.6m×0.45m

〈 1 〉 平成29年3月1日(水)夕刊(一部翌日朝刊)(月、水、金曜発行 1か月隔週)



瀬戸内タイムス

まちの応援団・瀬戸内タイムス 〒743-0013 光市中
☎0833-72-2888 FAX 72-8393 Eメールアドレス setouchi



サンヨウアオイを植えています

周防小花壇にサンヨウアオイ

ギフチョウ飛来願い植える

周防小学校は三月二日、新しく設けた花壇にギフチョウの食草であるサンヨウアオイを植栽した。

周防小三年生は理科の授業で山口県東部が生息地の南西限とされるギフチョウについて学んでいる。今年度も

陰を好むため、専用の花壇を設けた。周防シニアクラブ連合会(竹林哲也会長)が全面的に協力し、体育館側の校舎の間の日陰部分に花壇(二m×三・四m)を手作りした。花壇の土は、コミュニティ広報「すおう」を通じて、バケツ一杯の土の提供を呼びかけたところ、地区住民から次々と寄せられた。

植栽は三年生十四人と、来年ギフチョウについて学ぶ一年生十人が行い、シニアクラブの会費(二十人分)が見守る中、「大きくなれ」と声をかけながら、みんなで五株を植えた。今後、株を増やしていきたいという。

竹林会長は「ギフチョウが飛んで来てくれることを願って、子供たちと一緒に育ていきたい」と思い「すおう」で話した。(通)



見守られながら植栽する児童たち



校庭の草取り・花植

腐葉土のブレンド



先生も頑張ってます





昔の暮らし

体験学習

日 時 平成29年1月19日
場 所 周防小学校 3年生15名
指 導 周防シニアクラブ 25名
進 行

1. 昔の暮らしの話

2. 実習(5班にわけると各班 児童3名、シニア5名)

- 1). 七輪・かまど… いも・餅・めだしのそれぞれの焼き方・米の炊き方
- 2). 炊飯 … お米のとぎ方・水加減等・お握りの作り方
- 3). 火の特性を知る…
 - ・マッチの使い方・火の起し方・薪の燃やし方
 - ・火かげん・炊飯状況観察・火吹き竹・団扇の使い方
- 4). 食の大切さを感じる … 子どもと一緒にむすびを作り食べる
- 5). 七輪の特性を知る … 松葉や消し炭を利用し炭に火を付ける方法。
餅やき網で…つきたての餅・いも・めだしを焼きながら食べる



火吹きだけ…おもしろそう



おむすびを楽しそうに結んでいます

みんな一言ずつお礼の挨拶

マッチがなかなかつかえません



平成28年度シニアクラブ活動実績(延参加人数)

H.28年度実績

H.29.3.1

シニア層（高齢者支援）

対象		行事名	月 日	延参加人数	
市老連		総会・理事会	5月13、20日	12	人
		文化祭	10月26日	82	人
		健康フェスタ	11月11日	44	人
		G/ゴルフ大会	5月26日、10月3日	28	人
		計		166	人
高齢者学級 (5回)	1. 賢い消費者になるために	4月21日	108	人	
	2. クラフト教室	6月29日7月21日	26		
	3. 防府航空自衛隊見学	9月15日	31		
	4. マジックショウ	1月13日	60		
	5. 椎茸栽培講習会 2/12 45名 .. 原木運搬 ... 2/9 18名	2月12日	63		
		計		288	
	女性部 (友愛訪問)	友愛訪問委員 介護研修会 山口セミナーパーク 29名	11月14日	39	人
男性料理教室 指導者研修会 パン作り 講習会 10名		11月25日			
男性料理教室 (12回)	・ 料理教室 9回		211	人	
	・ 料理研修会 (岩国 うまもん・糠床)	7月5日	28		
	・ 味見の体験 (室積 かな久)	8月2日	23		
	・ H.29.新年会 (コミセン)	1月10日	33		
		計		295	
小 計 (延)			788	人	

その他	定期総会	4月21日	108	人
	研修旅行(世界遺産 八幡製鉄所・豊後森機関車) 天ヶ瀬温泉	4月13・14日	28	人
	拡大役員会	27年度分3月31日	33	人
	周防福祉・夢プラン・防災訓練	随時	60	人
	社会奉仕	9月12日	50	人
	公民館まつり・バザー・作品含	11月3日	30	人
	人権	7/7-2、 11/12-2、 12/3-2、 2/11-30	36	人
	忘年会	12月10日	84	人
小 計 (延)			429	人
合 計 (延)			1,217	人

対象		行事名	月 日	延参加人数	
小中学生（世代交流）	小学校	5・6年生 水泳の指導助手 (6名、8名、8名、4名+α)	7/1,4,8,11,15,20,21 (6/27雨欠)	28	人
		花壇作り、給食 (7/8▶18名、7/14▶8名)	7/8、7/14	26	人
		池の鯉作戦(池の掃除・整備、鯉≒40匹放流) ...6/17▶24名、6/23▶16名、7/3▶8名、 ...7/17▶17名、その他作業10名、2/22池の掃除 23名	6/17、23 7/3、17 2/22	98	人
		教育フォーラムin光 7/26▶16名、7/27▶13 名、7/28▶8名、8/18▶18名、8/19▶18名	7/26,27、28、 8/18、19	73	人
		通学合宿 お月見の会 9/13▶24名 G/G 9/17 ▶15名	9月15日～19日	39	人
		昔の遊び・・(屋内:綾とり・お手玉・紙飛行機作り・ 屋外:竹馬・輪回し・竹とんぼ) 11/26▶13名・12/1 ▶18名	12月1日	31	人
		花壇作り、給食	12月13日	20	人
		輪飾り 12/14 6名、12/16 19名	12月16日	25	人
		花壇作り(アサギマダラ・ギフチョウ)枠作り 1/6・22名 1/7・18名 苗植え 2/22 23 名	1月6・7日	63	人
		昔の暮らし	1月22日	17	人
		小 計		420	人
	中学校	中学生リーダー養成講座	11月13日	4	人
		小 計		4	人
	サンホーム等 (学童保育)	ボーリング、お猿の籠や、オセロ、他	6月15日	17	人
		虫かご作り	7月22日	14	人
		屋外スポーツ(三角ベース・ボーリング)	10月19日	12	人
		小 計		43	人
	チャレンジ キッズ (放課後 子ども教室)	折り紙	8月11日	18	人
		門松作り 12/19・6名 12/27・30名	12月26日	36	人
		小 計		54	人
	合 計 (延)			521	人

総 合 計 (延参加人数) 1,738 人

周南市

中央・関門地区

老人クラブ連合会

～ 多くの信頼できる大人との出会いで、子供の社会性と思いやりの精神を育む ～



連携している学校

周南市立徳山小学校

(児童数：約 680 人／コミュニティ・スクール指定：平成 24 年度)



地域の概要

人口：11,991 人 世帯数：6,187 世帯 65 歳以上：3,038 人 高齢化率：25.3%

周南市の中心部に位置し、周南市役所、山口県総合庁舎、JR 徳山駅、徳山港、商店街、周南コンビナート等を抱え、行政、交通、商工業の中心でもある。「関門地区」という名称は毛利氏時代の城下町の名残である。



老人クラブの概要

周南市老人クラブ連合会は、徳山支部（クラブ数 79 クラブ、会員数 3,019 人）、新南陽支部（41 クラブ、1,634 人）、熊毛支部（13 クラブ、376 人）、鹿野支部（12 クラブ、345 人）の 4 支部で構成されている。（平成 28 年 5 月現在）

活動内容については、本部活動と支部活動に分けられる。本部活動は、「総会」「本部理事会」「輝き周南大学（第 11 期）」「高齢者振興大会」「球技大会」「研修旅行」「女性委員会」「ジャーナル編集会」等がある。

また、支部の活動は、（例：徳山支部）「総会」「ふれあいスポーツ大会」「理事会」「各球技大会」「大向福祉農園作業」「女性委員会」等がある。

『事業部』で実践している事柄について、（例）徳山支部では、「農園部作業」「球技部（グラウンド・ゴルフ、ペタンク等）」「ウォーキング部」「健康マージャン・囲碁部」「歌声部」「映画部」「見守り部」「旅行部」「料理部」「社会奉仕部」「コーラス部」「フォークダンス部」「総務委員会」等で、事業を進め、活動している。



学校と連携している老人クラブ

中央・関門地区老人クラブ連合会（会員数 525 人／単位クラブ数：13 クラブ）



学校と関わった経緯

平成24年度に徳山小学校がコミュニティ・スクールに指定される前から中央・関門地区老人クラブ連合会として関わっていたが、コミュニティ・スクールに指定された当初から地区老連の会長が学校運営協議会の会長として参画している。現在、3期目を迎えており、校長先生をはじめ、教頭先生、地域連携担当の先生の理解と協力もあり、学校との連携が円滑に進んでいる。

なお、徳山小学校では、子供たちの地域の担い手としての成長をめざし、子供たちが多くの信頼できる大人と出会い、地域を愛し、地域に誇りが持てるよう、「地域参加型授業※」や「大人の学び※」等を通して、地域住民、PTAの来校者を増やす取組を進めている。平成28年度は、約12,000人（平成29年2月時点）が来校している。



学校での活動の具体的な内容

【従来からの主な取組】

- * 学校運営協議会における一層の充実を図る
- * 登下校時の見守り活動
- * 昔からの遊び（だるまお年、けん玉、コマ回し、竹馬等10種類）〔1年生対象〕
- * 地域参加型授業〔主に4年生、5年生対象〕への参加
- * 大人の学びへの参加
- * 学校の中庭で演芸指導〔5年生、6年生の緑化委員対象〕

【今回の事業での取組】

- * 三世代交流会
 - ⇒ 親近感のある三世代での交流や体験を通して、子供たちの社会性や思いやりの養成を図ることを目的として、周南市老連が所有している向道湖福祉農園で平成28年10月29日（土）に三世代交流会を行った。
 - ⇒ 当日は、徳山小学校と岐陽中学校の合同で、希望者の親子30組60人に老人クラブ30人を加えた90人が参加した。農園では、農業体験として、栽培しているさつま芋を掘り、焼き芋にした。また、バーベキューを共有し、子供たちは楽しく、働く喜びの体験学習ができた。

※「地域参画型授業」

真剣に向き合ってくれる大人と、学びを通して関わることで、学ぶことの大切さや地域の素晴らしさを学んで欲しいと願い、国語、道徳、学活の授業で実施している。

※「大人の学び」

地域の大人を参加対象として、英語、理科、社会、音楽、美術の授業を開設しており、若い世代をはじめ、多くの地域住民の来校につながっている。



昔からの遊び〔コマ回し（左）、あやとり（右）〕



地域参加型授業（４年生の道徳）



三世代交流会（芋掘り）



活動での工夫（活動がうまくいくように心がけていることなど）

- 昔からの遊びでは、１０種類以上の道具を活用し、１年生１３０人に対応できるよう、事前の人員配置や子供のローテーションを決め、計画性を持った効率のよい展開を図っている。
- 地域参加型授業では、子供たちに「生涯を通して、学び続けられる大人の姿」を見せることが大切と考えており、子供たちがそうした姿を間近で見ることで大人を信頼できるきっかけになると考えており、事前学習して魅力ある道徳授業の展開に努めている。
- 子供たちに老人クラブをはじめ学校に関わる団体が学校に貢献していることを伝えてきた。大規模校では、学校と各団体の関わりや意義や目的を伝えることが特に必要であり、丁寧に伝えることにより行事への参加者が増えている。



活動を振り返っての成果（活動が行っていて良かったことなど）

- 昔からの遊びは、楽しむだけでなく、団体行動を通して考える授業という視点で、お互いに教え合う、一緒に考える場面を設定し、社会性や思いやり等を養成してきた。
- 地域参加型授業において、老人クラブが道徳の授業に参加した際、子供たちからは「大人の人と一緒に勉強したことで、自分の考えがより深まった。」「地域の人が優しく聞いてくださるので、嬉しかったし、自分の意見に自信が持てた。」といった声が聞かれた。
- 大人の学びはもちろん、地域参加型授業も自分の勉強になると好評である。
- 自分の孫をみるように子供たちと接している。子供たちも楽しかったと喜んでもらえている。



活動での課題（活動が行う中で困っていることなど）

- 大規模校に共通するが、子供たち全員が参加できない。
- 本年度初めて実施した「三世代交流」の会場である向道湖福祉農園（周南市老人クラブ連合会経営）は学校から20キロメートル離れており、交通費が高くなる。参加費を無料としているため、予算をうまく使うことが求められる。



活動での反省（活動で失敗したことや改善点など）

- 三世代交流会は、芋掘り・バーベキューの楽しかった思い出だけではなく、より一層の社会性や思いやりの精神を養成するにはどのような配慮が必要か、内容を吟味して検討を重ねたい。



今後の活動の展望（今後の活動予定や意気込みなど）

- 老人クラブは「健康」「友愛」「奉仕」の活動に取り組んでいるが、このたびのように地域社会や学校に何ができるかと思いを巡らせ、他に貢献することが強く叫ばれてきたことに敬意を表す。大人の学び等を通して地域の人が少しでも多く来校し、児童にとって地域の人に見守られているという安全・安心を感じて欲しいと思う。
- 会員や地域の高齢者には、コミュニティ・スクールとの連携事業をはじめとした奉仕面（社会貢献）を強調し、地域の中で老人クラブが高齢者の活躍できる場を提供していることを知らせていきたい。その中で、何か自分ができること、関われることを見つけてもらい、生きがいを感じることでできる老人クラブになっていければ、会員増強にもつながると考えている。



地域参加型道徳について

日 時：11月16日（水） 14：10～14：55

（14時までにコミュニティールームにお集まりください。）

場 所：4年1組教室

学 年：4年1組33名

テーマ：友達だからこそ（「絵はがきと切手」4年生のどうとく）

☆資料のあらすじ

主人公のひろ子さんは、ある日、転校していった正子さんから一通の絵はがきを受け取ります。しかし、絵はがきは定形外郵便であったため、料金が不足していました。ひろ子さんは返事の中で不足料金の事を伝えるべきかどうか悩みます。お母さんに相談すると、「お礼だけ言っておいた方がいいのでは。」言ってくれました。しかし、お兄さんは、「友達だから教えるべきだ。」と言って譲りません。迷った末、ひろ子さんは不足料金の事を伝えることにし、手紙を書き始めます。



☆ねらい

友達のことを思うからこそ、自分の思いを伝えることを躊躇した経験は誰にもあるはずです。しかし、友達と信頼関係を築くためには、忠告をすることも時には必要となります。表面だけの仲良しではなく、互いに忠告をしたり、それを受け入れたりすることの大切さについて話し合うことで、友情を深めていこうとする意欲を高めたいと考えます。

☆参加の仕方

児童と同じように参加していただければと思います。一斉の場での挙手や発言も大歓迎です。グループでは、児童が中心になって話し合いを進めます。児童の意見をしっかり聞いていただき、時には、「詳しく教えて。」などと問い返していただければと思います。

前回（10月16日）の道徳の後に、4年1組の子供達に「地域の人が入って勉強する道徳はどうだった？」と聞いてみました。すると、「大人の人と一緒に勉強したことで、自分の考えがより深まった。」「地域の人優しく聞いてくださるので、嬉しかったし、自分の意見に自信がもてた。」という声が多く挙がりました。また、11月にもう一度勉強することを伝えると、「やったー！」と大喜びでした。地域の方と一緒に学ぶことを本当に楽しみにしています。当日はどうぞよろしくお願いいたします。



三世代交流会

世代を超えた90人で
芋掘り・バーベキュー

10月29日(土)、地域(老人クラブ)と学校の連携を目標とした三世代交流の行事、芋掘り・バーベキュー交流会が青空のもと大向・向道湖畔の福祉農園で行われました。

前日から、たくさん野菜、肉、米、木炭などを用意して当日を迎えました。徳山小と周陽中(希望者)の親子30組60名に老人クラブ30名の大所帯で芋を掘り、バーベキューを共有してお腹いっぱいのごちそうをいただきました。子どもたちは園芸用の小さなスコップで掘るのに苦労したようで、そのぶん味も

格別だったようです。

今回初回であり十分なこととはできませんでしたが、子どもたちは楽しく、働く喜びの体験学習ができ、すばらしい交流の場でした。来年度はさらに内容をよく吟味して続けたいと思います。

今、コミュニケーションが全国、県下で盛んに展開されていますが、その一環となる実践です。これを機に地域、家庭が一緒になって子どもたちを育む第一歩となるよう期待したいものです。



周南市 桜木地区老人クラブ連合

～ 中学校での取組を通して、地区同士のつながりを再構築する ～



連携している学校

周南市立周陽中学校

(生徒数：450 人／コミュニティ・スクール指定：平成24年度)

※周陽中学校、桜木小学校、遠石小学校の3つの小学校区で構成する。

(遠石小学校は、約5割の生徒が周陽中学校に入学する。)



地域の概要

人口：6,017 人 世帯数：2,773 世帯

周南市の南東部に位置し、周南団地の一角に位置し、桜木、城ヶ丘、平原町の3つの町から構成される。地勢は、とおの山の麓から国道2号を経て、県道下松新南陽線にかけて、なだらかに下る閑静な住宅地である。

国道2号沿線及び桜木通りに沿っては中小の事業所や住宅が密集している。また、地区の北部高台には、徳山大学と徳山高専が立地している。



学校と連携している老人クラブ

桜木地区老人クラブ（会員数：383 人／単位クラブ数：7クラブ）



学校と関わった経緯

桜木地区老人クラブ連合会の副会長が桜木小学校学校運営協議会の地域コーディネーターを務めており、周陽中学校で地域コーディネーターを立ち上げる際に協力したことで、周陽中学校との関わりができ、行事等の連絡が入るようになった。そうした中で、以前は、周陽中学校区を構成する3つの小学校区（周陽、桜木、遠石）の地区同士で老人クラブとしても地区社会福祉協議会としても会合を持って、情報交換や交流を持っていましたが、現在では途切れており、周陽中学校での行動、取組を通してこのつながりを再び取り戻せないかと思い、今回の三世代交流会を中学校に持ち掛け、実現した。

地元の桜木小学校とは、交通安全立哨、昔の遊び、つつじの選定等20年以上前から継続して関わっており、現在も学校からの要請に対して、日常的に老人クラブとして無理のない範囲で応え、連携を深めている。



学校での活動の具体的な内容

☆ 周陽中学校での取組

【従来からの主な取組】

- * 登下校時の見守り
- * ニコニコ挨拶プラン運動
 - ⇒ 中学校の通学路で生徒と挨拶を交わす。桜木小学校区内で立哨に参加している。
- * 自学サポート
 - ⇒ 期末テスト前の放課後に、徳山大、徳山高専の学生を交えて自習の手伝いをする。

【今回の事業での取組】

- * 三世代交流会
 - ⇒ 中央・関門地区老人クラブ連合会が連携する徳山小学校と桜木地区老人クラブ連合会が連携する周陽中学校の合同で、周南市老連が所有している向道湖福祉農園で平成28年10月29日(土)に三世代交流会を開催した。桜木地区老人クラブ連合会としては、周陽中学校区を構成する3つの小学校区(周陽、桜木、遠石)のつながりの再構築の第一歩として実施した。
 - ⇒ 交流会では、周陽中学校のサッカー一部の生徒が参加し、大変元気よく、後始末も積極的に手伝ってくれた。

☆ 桜木小学校での取組

【従来からの主な取組】

- * 1のつく日の交通安全立哨
- * 昔の遊び〔1年生対象〕
- * 社会科学習協力
- * 一斉クリーン作戦
- * ツツジの剪定
- * 三世代交流スポーツ大会(グリーンフェスタ)
- * 図書ボランティア

【周陽中学校との連携風景】



三世代交流会の様子

【桜木小学校との連携風景】



昔の暮らしについての授業



三世代でのグラウンド・ゴルフ



昔の遊び（将棋）



昔の遊び（かっぽん）



活動での工夫（活動がうまくいくように心がけていることなど）

- 中学校での活動では、小学生の時に仲良くしておくとう中学生になっても覚えていてくれる。まず小学校としっかり連携することが大切である。
- 小学校での竹トンボ作りの際に、子供たちが慣れない小刀を使って危ないので見守ってほしいと要請があった。高度な技術を要するものはそれなりに腕の立つ人に依頼し、一般の人には見守りを頼むといった能力を見極めたうえでの役割分担をした。
- 桜木地区では、第3水曜日に単位クラブから5～6人が桜木公民館に集まり、懇親会や勉強会を行い、会員同士の顔つなぎを行っており、結束力を高めている。学校との連携活動を行う際も日頃からの連携で、円滑に実施できている。



活動を振り返っての成果（活動が行っていて良かったことなど）

- 三世代交流会に、周陽中のサッカー部員がまとまって参加し、後始末も積極的に手伝い、活躍してくれた。三世代交流会が楽しく過ごしながらも、しつけの面でも効果があり、意義ある催しであることを実感できた。
- 地区内にある徳山大学と徳山高専も地域との交流を図っているので、学生が 200 人前後、地区の一斉清掃に参加してくれる。清掃に参加することで普段から通学途中などにごみを捨てないようにになっている。子供たちが実際に地域に参加することで地域への意識が高まり、地区にとっては意味のあるイベントになっている。
- 老人クラブ会員にとっては、学校や地域社会に貢献しているという意識が自分の生きがいにつながる。また、子供たちから元気をもらい、顔を覚えて「あの時のおじちゃんだ」等と声をかけてくれることはうれしく、次の活動の活力になる。
- 老人クラブの会員は、日常生活の中では「教える」「指導する」機会は少ないので、学校へ参加することが自分自身の刺激になっている。
- 桜木小学校の授業参観に地域の人が同席していると、児童生徒の行動が落ち着く傾向が見られる。三世代交流会や挨拶運動、授業参観などを通じて、地域の人が自分たちに関心を持って見てくれているという安心感を持つことは大切である。



活動での課題（活動が行う中で困っていることなど）

- 学校との連携は平日の活動が多く、老人クラブ会員が中心となる。自治会とも連携するが同じような顔触れになることが多い。
- 老人クラブ会員の高齢化が進み、たとえば以前は、ある会員が「昔の遊び用」の竹トンボを 1 人で 100 個くらいは作成されていたが、だんだん難しくなるというケースも出ている。違う遊びを検討したり、後継者育成をしたりする必要がある。
- 桜木地区で実施している三世代スポーツ大会（グリーンフェスタ）では、引きこもり防止の観点から、老人クラブ会員だけではなく、「60 歳以上ならどなたでもどうぞ」と回覧を回したところ、これまでは声をかけても 3～4 人だったのが、11 人の参加を得た。ふれあい・いきいきサロンに参加していない人を、こうした高齢者の参加できる機会を情報提供して、増やすとともに、集まった時に顔つなぎをして何かの時には声かけがしやすくなるようなことを心がけていきたい。



活動での反省（活動で失敗したことや改善点など）

周陽中は周陽地区にあるので桜木地区としては少し遠慮してしまう面もある。積極的に参加して、周陽地区、遠石地区からの参加を盛り上げたい。



今後の活動の展望（今後の活動予定や意気込みなど）

- これからは高齢者も支えられるばかりではなく、お互いに支え合うようになる。老人クラブの価値や役割を見直して、いつまでも元気で活躍できる場、仕組み作りが必要である。学校との連携は、活躍できる場の1つであるので、継続していきたい。
- 桜木地区には老人クラブのない自治会が2つあるが、学校との連携活動や行事のたびに声をかけ、仲間を増やしていきたい。

